

アンケート

本日のシンポジウムをお聴きになり、あなたが何をしたいと感じたでしょうか。ご自身でできること、してみたいこと、提案したいことなどありましたらお書きください。また、特別養子縁組に関連したシンポジウムや勉強会で、何かご希望の企画がありましたらお書きください。

- 現在ソーシャルワーカーとしてお仕事をしているため、クリス・クリストフェイデスさんよりあったソーシャルワーク援助について学び日本でも行えたらと思いました。
- (不妊治療患者への) 特別養子縁組情報提供/養親希望者への子育てに関する情報提供・支援、育児休暇取得できるよう法改正を。
- 私は19歳(学生)なので自分ができることは少ないかもしれないが、まずは知ることから始めたい。そして、親になったときに深く考えられるようにしたい。
- 法律作りを進める議員や役人の考えを知る機会を設けていただきたい。
- 今日聴いて勉強したことを伝えていきたいと感じました。
- ”生物学的”関係と養親、両方いてくれてこそ自分が存在する、とおっしゃったミーガンさんのお言葉が印象に残っています。実親との関係に悩んできた人間として心が軽くなる一言でした。
- 特別養子縁組を私たち若い世代に知ってもらいたいと思いました。実際、身近に産もうかと考えている人がいるので力になりたいです。
- 養子を希望する者の視点としては英国の Be my Parent や Adoption Reg といった仕組みはとても良い取り組みと思います。日本ももっと多くの人に関心を持ち、各々の立場でこういった課題にとりくめる仕組みができるとよいと思います。
- 特別養子縁組を促進し、乳児院にいる子どもをなくしたい。
- 家庭を知らずに育った人の心の空虚をさを知って欲しい。
- 周囲の子どもに愛をもって接する。
- 外国の実例を聞くことはとても勉強になった。団体関係者だけでなく、外国(米、英など)の縁組の当事者、養親、養子の方の話を書く機会もあればと思います。
- 特別養子縁組についてもっと知りたいと思いました。また、とても根の深い問題だと感じ、養子となる子どもが増えないように、妊娠・出産する前からの教育も同時にアプローチしていく必要があると感じました。養親・実親だけでなく、社会全体が日本の現状を知る必要があると感じました。
- 深めて行く議論でした。ありがとうございました。
- 講演をされた方が皆”子どもの権利”を一番に強調されていて、よかったです。日本は特別養子縁組について遅れているという印象も受けましたが、より良くしていく可能性も十分感じられました。
- 子どものニーズを魅たせる様に子供を育てていきたい。

- 日本の養子縁組機関（海外の事例も参考に）の調査研究の企画（2014～）7 番の記述より、NPO 的なグループホーム、ファミリーホームの形態であれば、私の様な老人でも間接的？支援はできるか。
- 諸外国に比べ、日本で養子縁組が広がっていかない（広がってこなかった）理由が知りたい。→パネルディスカッションでその答えがありました。日本で養子縁組が広がる為には、日本人でも養親となりうる人達の縁組への意識が変わることが重要なのでは？と思いました。
- 養子縁組にまつわる様々なとりくみや問題が分かり、大変勉強になった。次は実際に養子をむかえたい夫婦を対象とした、実際のプロセス、体験談などを企画してほしい。
- 実際に縁組された親子の生の声が効けたらと思います。縁組＝ハッピーではなく、その後の苦労なども知りたいです。
- 今日都合が悪い学生が多かったので、もっとひんぱんに開催してほしい。
- 特別養子縁組が特別なのではなく、多くの方に理解してもらえるよう社会問題として一個人で考えるようになるように何かできたらと思います。法案が出されることもあり、国会議員とのディスカッションか、一般が参加できるようなシンポジウムが開かれてほしいです。
- 行政に対しての働きかけ、法整備についての Check。
- GLOBE の記事をきっかけに養子縁組と言う選択肢があるのだと知り、興味を持ちましたが特に何の知識もありませんでした。今回、国による制度や考え方のちがい、共通点を知ることができてよかったです。
- 国際企画を今後も続けて開催してほしい
- 一番聞いて頂きたかった方は政府の方、教員さんです！
- 養親希望者として、養子縁組に縁が無い人にも関心を持ってもらえる様、まわりの人に話をしていきたいと思います。
- 特別養子縁組に関して日本は外国に比べて法整備が遅れていると感じました。そのことに関 10 代の女の子のシェルター保護、性暴力被害者の支援団体とつなぐこと。
- 東京都には里親里子会がない。養子家庭も含めて、団体をつくる必要がある。
- 特別養子縁組であたたかい家庭で子どもを育てたいという気持ちが強くなった。
- 当事者として子どもたちのために支援を続けていきたいと思います。
- 日本はやはり海外に比べ、かなり制度が遅れている。自身の経験により、このような仕事に係りたい。